

もみじ

— 広島県山岳連盟会報 —



一般社団法人 広島県山岳連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

山岳・辺境文化セミナー2015

縄文号とパクール号の航海

講師 探検家 関野吉晴

9月26日(土) 西区民文化セミナーで開催

第22回山岳・辺境文化セミナーは9月26日(土) 西区民文化センターで開催された。聴衆約200名。講師は、探検家関野吉晴氏で「縄文号とパクール号の航海」というタイトルで講演された。同氏の講演は同セミナーでは3回目である。

関野吉晴氏プロフィール

一橋大学在学中に探検部を創設。アマゾン全域踏破隊長としてアマゾン川全域を下る。その後、現地での医療の必要性を感じ、横浜市立大学医学部へ入学、医師となり、南米への旅を重ねる。1993年から2002年にかけて、アフリカで誕生した人類がユーラシア大陸を通過してアメリカ大陸に拡散した道を、南米最南端から逆ルートでたどる「グレートジャーニー」に挑んだ



講演する関野吉晴氏

2004年からは「新グレートジャーニー 日本列島からやってきた人々」をスタート。シベリアから稚内迄の「北方ルート」、ヒマラヤからインドシナを經由して朝鮮半島から対馬までの「中央ルート」インドネシア・スラウエシ島から石垣島までの「海のルート」を踏破。

著書、写真集多数。1999年上村直巳冒険賞受賞。

第5回 登山教室をおえて

奥の原～吾妻山往復、比婆山一周

期間:7・25(土)～26(日) 登山形態:テント泊

山域:吾妻山～比婆山 人数:10名(スタッフ含む)

2015年度の第4回目は「テント泊の装備を背負って歩いてみよう」という事で、1日目は六の原～吾妻山の往復、2日目は比婆山一周を歩きました。初めてのテントに泊まるという受講生さんもおられたが皆さん計画通り距離をしっかりと歩きました。

(指導部 森本覚)

山の食事の重要性学ぶ

登山教室1年 加村裕子

登山教室第4回目は、テント泊山行ということで実際にテント泊に必要な装備を皆で分担して担ぎ・テントを張り・料理を行いました。

今回食料担当2名の中に選ばれた為、決まった時から「さあ、どうしようか・・・」と当日まで悩み続けました。

なぜなら自分でテントを背負っての山行の場合は、とにかく重量を減らす為簡単なもので済ませており山での食事の重要性を感じていませんでした。

しかし、机上講習でも学んだように山ではエネルギーの消費が激しいことやテント泊のように何日も登り続ける為筋肉疲労回復させる為にもいかに山での食事が重要かを学ぶことができました。

そういった中でリーダー育成クラスの先輩方より重量を減らしながらも栄養を有効的に摂取でき尚且つ山に持って行く為普段家で作る食材を使うのではなくどう代用するかなどの食材選びやたくさんのアイデアやノウハウを下さり、また過去の登山教室で作ってこられた献立表も頂いた為随分助けて頂きました。

また、これまで机上講習や山行で一緒に学んでいましたが、今回初めて1年生同士でアレコレと相談し合うことが増える機会にもなり仲間同士で助け合うという体験にも繋がりました。

山行日2日間はとても暑かったのですが、ブナ林が多い山の為樹林帯の中や山頂の吹き抜ける風・水場のおいしい水に助けられ全員で歩き通すことが出来ました。

比婆山は今までも何度も登っている山ですが、山頂から自分達が歩いてきた稜線がグルッと見渡せる為山頂にたどり着く度に次に向かう山を見ながら「あともう少し！」と自然と皆で声を掛け合うようになりました。

次に雪の季節の比婆山を歩くのが楽しみです。

今回は、山を皆で登る為に協力し合うことの大切さをとても感じた山行になりました。



写真提供 久保田征治

沢登り研修会報告

2年連続で雨天のため実施できなかった沢登り研修会が、今年は晴天の中無事実施することが出来ました。

(指導部 上原民樹)

平成27年度沢登研修会に参加して

新田太郎(一般参加者)

この度、岳連の研修会に初めて参加させて頂きました。単独での参加だったので若干心細かったのですが、指導員の方々ははじめとして皆さんとても接しやすく楽しい時間を過ごすことができました。また、指導員の方々の動作を見ていることでいろいろと勉強させて頂くことができました。厚く御礼申し上げます。今後も岳連の研修会を活用し、登山技術や知識を向上させていきたいと考えています。

結び目は登前に確認すること

小林克昌(一般参加者)

本日は大変お世話になりました。

拙い文章ですが研修会参加の感想をまとめました。

これまで単独独学でやさしい沢歩きをしてきましたが、ビギナーズラックの限界を感じ、一から学び直そうと思い、初級沢登研修会に参加しました。

ド素人の個人参加など場違いではないかと心配しましたが、同じような方もいて一安心。

湯の山温泉駐車場で簡単なロープワークの説明を受け入渓場所に移動。

ゴーロの谷を歩きウォーミングアップと沢靴のフリクションの確認。

初めの小さな滝(段差?)は戸惑ったが、ほかの参加者が果敢に挑戦するのを見て意を決して取り付くと意外に簡単に登れた。

次の滝では講師にロープを張って頂き、手掛かりも足場も豊富。三つ目の滝は少し滑っていたが、自信も着いた頃で登りきる。

四つ目の滝は感覚的には垂直にも見えて、私には難しく左岸を高巻きさせて頂く。

ここでアクシデント発生！

落ち口まで三步ほどの場所で足を滑らせてしまい、直登ルートロープの真上に落ちてしまいました。

クレムヘイストノットの結び目を掴んでしまって宙ぶりになるわ、見かねて出された直登用ロープをギアラックのカナピラに掛けてしまうわで、皆様には大変ご迷惑をお掛けしました・・・。

反省点 1

フリクションノットの結び目は登り始める前に確認する。

効いてなければ巻きを増やす。

たぶん大丈夫だろうはダメ。

反省点 2

自分の下のルートを登っている人がいるときは、絶対に落ちてはいけない。

細心の注意を！

反省点 3

滝の落ち口では速やかに安全な場所まで移動する。

リーダー上原さん、サブリーダー森本さんをはじめ岳連講師、参加者の皆様には大変お世話になりました。

今回の研修で学んだことを忘れず、今後も安全に沢登を楽しんでいきます。

沢登り研修会に参加して**渡邊久美子（個人会員）**

シャワークライミングを体験して見たくて初めて煤井谷沢登りに参加させていただきました。沢登りは、クライミング技術を要するので沢に入る前にロープワークの講習を受けました。前に岩山での講習を受けていたのですが、川の中で素早くできるのか心配になりました。



写真提供 久保田征治

参加された方々の装備が気になってみると履物が、さわたびやサワシューズや地下足袋にわらじを履いていて沢靴の歴史を見るようでした。神社の横から煤井谷に入り、川の中をジャブジャブ歩いて上流を目指しました。私は登山をしているときに川筋を歩いてあの川の中を歩いたら気持ちがいいだろうと思うことがあり、実際に川の中からの景色を見てワクワクしていました。

自分では、絶対登れない滝をロープで補助していただき安全に登ることが出来た時は沢登りが楽しくなっていて、次はどんなことがあるか楽しみになりました。難しそうな滝も前の方の足の置く位置を見ておいて登ることが出来、クライミングを楽しんで上流まで行くことが出来ました。

今回、私が楽しんで滝谷岩を登りきることが出来たのは、岳連スタッフの皆さんが安全に通過が出来るようにロープを張ったり、指導してくださったからだと思います。有難うございました。

来年、また研修があるのでしたら参加してクライミングの技術を身につけていこうと思います。

第6回登山教室をおえて**読図講習**

日時：9月27日（日）登山形態：日帰り登山

山城：クマンだけ～古鷹山

人数：12名（スタッフ含む）

2015年度の第6回目は「読図講習」という事で見晴らしの良い江田島に行ってきました。後半は藪こぎのルートでしたので現在位置の確認が特に重要と感じてもらえたようでした。（指導部 森本 覚）

「クマン岳・古鷹山」日帰り山行**沖元泰使**

第6回の登山教室は江田島にある、クマン岳・古鷹山への日帰り山行でした。今回は机上講習で学んだ、現在地の割り出し方法（クロスベアリング）を実地ですることが目的でしたので、岬や半島など、目標が視

認しやすい場所を選んでいただきました。見晴らしの良い場所に着いた所でまず、眼下に見える岬や島、港の目標にして正対し、コンパスを胸の前で水平に構え、プレートの矢印を目標に向けます。次にリングを方位磁針と合わせます。それからコンパスの角を地図上の目標に置き、磁北線と平行になるようにずらし、平行になったところで線を引きます。これをもう一か所別の目標で行い、2つの線が交わる所が現在地となる、という方法でした（一か所のみでも割り出すことは可能）。今回の山行が島に聳える山で回りの見通しが効いて目標が判りやすく、すぐに現在地を割り出すことが出来たので、やり方をしっかりと理解することが出来ました。

山行の前半は道の状態が良く、楽な山歩きでしたが、古鷹山を過ぎ、375 峰、248 峰を経て林道を横切ってから道の状態が途端に悪くなり、藪漕ぎの状態となりました。地図では 273 峰の少し先までは登山道がありましたが、途中の 317 峰からは踏み跡が判らなくなり、先頭は伸びた茨や蔓を切り拓きながら進むので、後ろのメンバーが見当違いの所へ降りていないか注意しなければなりません。ここで本来ならば勉強した方法で現在地を確認しながら進むのですが、高木や藪に阻まれて見通しが悪く、ほとんど GPS に頼ることになりました。皆さんの声掛けがあったおかげで、間違ったルートを下りていましたが、戻って取り戻す事が出来、時間が掛かりましたが無事に林道に出て下山することが出来ました。この藪漕ぎの最中、足元が見え難く、落ち込んでいる所へ踏み込んでしまう恐れがあり、岩が無いかどうかをよく確かめないといけないことを教わりました。またなるべく谷へは向かわず、尾根を目指すようにもアドバイスを受けました。

今回は読図以外で、またひとつ山の歩き方を教わることが出来、大変内容のあるものとなりました。

2016 年 8 月 11 日、新しい国民の祝日「山の日」



写真提供 久保田征治

第 7 回登山教室を終えて

10 月 24 日 (土) ~ 25 (日)

「三段峡～恐羅漢山～十方山～三段峡」

松本正和

10 月 24 日～25 日登山教室第 7 回目の山行は「三段峡～恐羅漢山～十方山～三段峡」と少し距離のあるテント泊で、2 日間とも天候に恵まれ、紅葉を堪能しながら気持ちの良い山行でした。

初日は三段峡から田代橋までは平坦な道で景色を堪能しながら散策し、砥石郷山登山口からやっと登山開始という比較的楽な山行でした。また、夕食は毎回嗜好をこらしたメニューで、今回もお好み焼きなどを美味しくいただきました。

二日目は恐羅漢エコロジーキャンプ場からゲレンデを經由して恐羅漢山、十方山、丸子頭、内黒山を經由して三段峡に下りる比較的距離のあるルートでした。30 分遅れでスタートしたにも関わらず、設定したコースタイムを 30 分以上上回るタイムで三段峡に戻ることができ、自分を含めて教室生の体力等が向上したと実感しました。

また、今回はアドバイザーとして岡谷副会長に参加していただき、初めて御一緒させていただきました。岡谷さんから今回の山行で、歩行技術、読図や気象の知識、積雪期でのちょっとした工夫など知識や知恵を色々教えていただきました。しかし、それ以上に感銘を受けたこととして、御本人は誰にも何も言われませんでした。自ら登山道にあるゴミを一つ一つ拾って持ち帰られていたことでした。登山道は通常の道路などと違いボランティアによる整備がほとんどであ

り、その登山道を使わせていただいている登山者自らがきれいにするという感謝の気持ちが重要だと感じました。

登山教室では様々なことを教わるチャンスが数多くあることに感謝しつつ、今後も少しでも登山技術だけでなく精神的なものも身に付けることができるように努力していきたいと思えます。本当にありがとうございました。



写真提供 久保田征治

第2回大山キャリアアップ・ボランティアに参加して 福永 やす子

山岳連盟事務局から転送メールで大山のボランティアを知り、即参加申し込みをする。以前、汚泥のキャリアダウンに申し込んだ時は希望者が多く250名に達して断られた事がある為だ。雪の大山に参加したメンバーにメールをして二人で参加。早朝、7時からの受付なので下山キャンプ場で宿泊予定。キャンプ場に行くと鳥取県の職員の方が準備にいられていて駐車場にテント張る許可を取りトイレ近くで鍋を囲み就寝する。

早朝から車が慌ただしく入って来て瞬く間に駐車場が一杯になる。慌ててテントを撤収。県外の車が多く8/11の山の日のイベントも兼ねてのキャリアアップ企画だった。

今回は木道の滑り止め栈木を大山山頂小屋まで運ぶイベントだった。

参加者は250名の募集に226名参加して502本の栈木が頂上に運ばれた。個人の力量に合った栈木をリュックに付けて登った。16本(800g×16=13k

g)近く押し込んで両手に持って登る若者もいたが私は2本の栈木と一木一石運動の石をリュックに入れて登った。天気恵まれ心地よい風が吹き、最高な気分！六合目で大休止。甘い物を戴き、スタッフの方と会話し写真撮ってもらう。雪の六合目からは違い段差があり栈木を負ったメンバーが頂上へと続く異様な光景だ。山岳連盟の参加者もチラホラ。仲間に挨拶し小屋で集合写真に納まる。今回山頂に登って感じた事は冬に雪で埋まる太陽光の施設とあの臭いトイレが水洗トイレに変わっていた事だった。水洗トイレの設置は環境省の補助事業として(73,000千円)で平成13年設置されトイレ等の自動消灯や太陽光の設置もトイレの水洗トイレ設置改修に伴って行われ管理運営は鳥取県西部総合事務所生活環境局が行っているとの事でした。汚泥のキャリアダウンも今は落ち着いているが溜ると以前のような活動はあるとの事です。運びあげた栈木で木道の補修工事も無事終了したと報告を戴きました。皆さん！トイレも木道も気持ちよく活用し、ボランティアにも進んで参加しましょう！美しい大山を永久に維持するために・・・。



6合目で幟をもって

岳連短信

1、「ちゅうごく山歩きNO3」発行

中国地方の里山を中心に紹介した「ちゅうごく山歩きNO3」が2015年9月発行された。中国新聞日曜日に毎号掲載される松島宏氏(岳連理事)執筆の原稿をまとめたもので、今回第3号となる。中国地方の50山が掲載されている。

2、「山の日」フォーラムひろしま2015開催

2015・8・11 (火)「山に親しむ機会を得て山の恩恵に感謝する日」を考える「山の日フォーラムひろしま2015」が東広島市中央生涯学習センターで開催された。山の日トークでは「身近な山に出かけよう」のテーマで次の人が話し合いをされた。

パネリスト

- 小林千穂 山岳ライター
- 長沼 毅 生物学者 広島大生物生産学部准教授
- 成川隆頭 全国「山の日」協議会顧問
- 伊藤俊彦 広島「山の日」県民の集い実行委員会長
- コーディネーター
- 萩原浩司 山と溪谷社 山岳図書出版部長・編集長

3、野呂 NO 4 広島県庁山の会 50 年記念 CD

県庁山の会菊間秀樹会長は「はしがき」で次のように述べている。

「創立 50 年を迎え、積み重ねた会の歩みと記録、写真等のデータを整理した電子版「野呂」を作成しました。懐かしい写真や先達の山行など参考になるデータも多いと思います。改めて古きを温めこれまでの伝統と実績を受け継ぎつつ、新たな 50 年に向け、県庁山の会のますますの充実と飛躍を目指しましょう。」

収録内容

- 1 山行記録 (H12~27)
- 2 山の会の四季 (H14~27)
- 付録 野呂 (NO 1 ~ NO3)

事業計画 11 月

- 7 (土) 岳連例会山行 (三段峡)
- 7 (土) 全国高校選抜クライミング県内予選会
- 8 (日) クライミングスクール修了式 (烏帽子岩)
- 11 (水) 第 8 回運営会議
- 18 (水) 全員協議会 (西区民文化センター)
- 25 (水) 第 2 回スカイラン実行委員会

山の風景 55

三徳山—日本一危ない国宝観賞 (投入堂)

2015・7・4 写真提供 仲井正美 (ひこばえ)



訂正

「もみじ 143」 1 頁 右上写真説明

正	誤
挨拶する日本山岳協会顧問坂口三郎	挨拶する松隈自然保護委員会委員長

編集部より

- この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。
- 会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。
- この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせください。

題字デザイン 今村みずほ 編集 仲井正美